

草の根・人間の安全保障無償資金協力に係る
本邦 NGO によるフォローアップ事業 報告書
(対象国：モロッコ)

2017年10月

特定非営利活動法人 地球のステージ

目次

1. 調査概要	2
2. 現地調査スケジュール	2
3. 調査参加者	2
4. 視察案件の評価	3
【案件1】女性と子どものための社会センター建設計画	3
【案件2】ビン・エル・ウイダン村道路整備計画	5
【案件3】メクネス身障者義肢製作施設機材整備計画	7
【案件4】グルシフ社会活動・訓練センター建設計画	9
【案件5】グルシフ県村落部保健センター妊産婦医療機材整備計画	11
【案件6】ラス・エルクサル村飲料水供給計画	13
【案件7】巡回眼科検診及び眼鏡加工機材強化計画	15
5. 視察を行ってのコメント	17
6. 提言	18
付録. 写真報告	19

1. 調査概要

2017年9月11日～15日、特定非営利活動法人「地球のステージ」が在モロッコ日本大使館の委託を受け、「草の根・人間の安全保障無償資金協力フォローアップ調査」を行った。本調査の目的は、在モロッコ大使館が選定した「草の根・人間の安全保障無償資金協力」（以下草の根無償）の7案件の運営状況を訪問調査し、草の根無償制度の効果的な実施のあり方について提言を行うものである。

「地球のステージ」は、モロッコと同じくアラブ・イスラム文化圏であるパレスチナにて、「日本 NGO 連携無償資金協力」の運用経験を有しており、調査者は、モロッコ JOCV として2年間の滞在経験がある前田が担った。

2. 現地調査スケジュール

日付	調査案件
2017年 9月11日(月)	【案件1】 H23「子どもと女性のための社会センター建設計画」
2017年 9月12日(火)	【案件2】 H27「ビン・エル・ウイダン村道路整備計画」
2017年 9月13日(水)	【案件3】 H17「メクネス身障者義肢製作施設機材整備計画」 【案件4】 H22「グルシフ社会活動・訓練センター建設計画」
2017年 9月14日(木)	【案件5】 H24「グルシフ県村落部保健センター妊産婦医療機材整備計画」 【案件6】 H23「ラス・エルクサル村飲料水供給計画」
2017年 9月15日(金)	大使館にて、花谷大使表敬 【案件7】 H14「巡回眼科検診及び眼鏡加工機材強化計画」 大使館にて、倉富参事官に調査結果を報告・帰国

3. 調査参加者

調査者：前田 那美子（NPO 法人地球のステージ パレスチナ事業担当）

同行者：矢間 秀行（外務省 国際協力局 開発協力総括課 課長補佐）

石井 正子（外務省 国際協力局 開発協力総括課 経済協力専門員）

現地調整：石井 彩（在モロッコ日本大使館 二等書記官（開発協力担当））

深須 みゆ記（在モロッコ日本大使館 草の根人間の安全保障無償外部委嘱員）

ムーレイラシッド・アラウィ（在モロッコ日本大使館 現地職員（開発協力担当））

4. 視察案件の評価

【案件1】

案件概要			
案件名	女性と子どものための社会センター建設計画		
案件名（仏語）	Projet de construction d'un centre de social de la femme et de l'enfant		
実施年度／地域	2011年度（平成23年度）／マラケシュ		
被供与団体	グラン・アトラス協会		
被供与団体（仏語）	Ass. le Grand Atlas		
供与限度額	58,654 ユーロ	7,038,480 円	651,304DH(ディルハム)
分野／態様	民生環境／施設建設		
案件内容	<p>職を持たない女性に対する職業訓練と未就学児童に対する基礎教育の機会を提供する社会センターにおける、女性への職業訓練施設部分の建設。</p> <p>草の根無償にて建設した2階部分は、当該センターで受け入れる全訓練生の約22%（110人）が年間を通して使用している。</p> <p>各室の使用用途は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訓練室1：理容師・エステティック技術訓練（女性計30人） ・訓練室2：服飾技術訓練（女性40人） ・訓練室3：保育技術訓練（女性40人） ・事務室1，秘書室1，トイレ2か所 		
供与品目	<p>女性への職業訓練施設部分の建設工事として、3階建て建物（総床面積985㎡）の2階部分（床面積325㎡）の躯体工事，仕上げ工事。</p> <p>敷地：被供与団体所有地（3,650㎡）</p> <p>1階→国（INDH）資金，3階→アルテル・エゴ基金と被供与団体資金，屋外整備工事→被供与団体資金</p>		
フォローアップ視察			
視察内容	<p>センター長の案内のもと、当案件にて建設された2階部分のみならず、1階及び3階も含む全教室を視察。1階の被服室にて刺繍の訓練、2階のエステティック技術訓練室にて講義を行う様子も見る事ができた。</p>		

<p>供与施設・機材の利用状況及び管理維持体制</p>	<p>施設維持費は被供与団体が賄っているが、合わせて、訓練参加者のうち、経済的に負担とならない者より、月に 100DH (約 1,200 円) の受講料を徴収し、施設運営費に充てている。館内は全体的に綺麗に使用されており、清掃が行き届いている様子。団体が雇う掃除婦が定期的に清掃を行っているとのこと。</p> <p>申請当初の設計図と比べ、訓練室の教室割に変更があったものの、予定通りの設備を備えて訓練を行っている。</p> <p>視察時は、訓練が終了したばかりで、次期利用者登録期間であったため、訓練の開催風景を 2 件しか視察することができなかったが、センター長による活動の説明と、センター内に展示された絵画や被服等の作品により、活発に利用されている様子が分かった。</p>
<p>案件の裨益効果</p>	<p>施設周辺地域の、就学や専門技術習得の機会がなく職を持たない女性たちの社会進出を目指し、美容、エステティック、服飾、保育技術等の訓練を提供しており、年間 200 人の女性が各訓練を受講している。</p> <p>被供与団体は、職業訓練を受けた女性に対する職業斡旋や開業支援も積極的に行っており、特に、美容分野の訓練を受けた女性は、ほとんどが身につけた技術によって職を持つことができているとのこと。</p>
<p>調査者コメント</p>	<p>訓練に参加する女性は、施設周辺地域から通って来るとのことだが、施設が中心街から近く、周辺には住宅が密集しており、大変アクセスしやすい立地であり、これも利用者の拡大や登録生の継続した訓練参加の一助となっていると考える。</p>

【案件 2】

案件概要			
案件名 案件名（仏語）	ビン・エル・ウイダン村道路整備計画 Projet d'aménagement d'une piste dans la commune rurale de Bin El Ouidane		
実施年度／地域	2015年度（平成27年）／アジラル		
被供与団体 被供与団体（仏語）	イムラ環境開発協会 Ass. Imoula pour l'environnement et le développement		
供与限度額	70,793 ユーロ	9,911,020 円	762,057DH
分野／態様	通信運輸／施設建設		
案件内容	ビン・エル・ウイダン村 13 集落の安全な交通を確保するため未舗装道路(8,200 m) の補強工事を行う。(県道 306 号から 1 km地点のビン・エル・ウイダン村中心部とアヌニショウ集落までの区間)		
供与品目	道路整備工事（全長 8,200m） 掘削工事，盛土工事，基礎盤掘削工事，基礎盤コンクリート工事，蛇籠工事，締固め工事 団体負担部分：擁壁工事，排水管工事（排水管φ800 6か所（全長 50m））		
フォローアップ視察			
視察内容	被供与団体の協会長の他、村長と施工担当者も同行して案内いただいた。中心地からアヌニショウ集落まで車で移動し、当案件での舗装道路の状況及び周辺集落へ向かう未舗装道路を視察した。		
供与施設・機材の利用状況及び管理維持体制	山間部集落の人々が、食料や生活用品の購入等で村中心部に移動する際や、山間部集落の子どもたちがアヌニショウ集落にある小学校への通学の際に利用されている。		
案件の裨益効果	<p>当地は切り立った山岳地域である。当案件の舗装道路は、標高 940m の村中心部を起点に、山の斜面を蛇行しながら標高 1,300m のアヌニショウ集落までをつなぐ 8.2Km の生活道路である。予算の関係でコンクリート舗装まではできなかったとのことだが、ぬかるみやすい悪路であったところ、掘削・盛土・締固め等の工事で平坦で車の通行が可能な道路となった。</p> <p>舗装前は、車が乗り入れることができず、山間部の集落へは、ロバ等の動物で移動することしかできなかった。また、雨季には降雨、冬季には降雪があると、水はけが悪く通行できないため、集落の住民は雨季及び冬季になると集落を離れることができなかった。道路舗装を行い、被供与団体の負担で配水管工事を行ったことで、車の通行が可能となり、山間部で急患が出た時の搬送が可能になり、集落の子どもたちの通学の危険がなくなるなど、舗装道路の周辺にある 13 集落の住民全 4,435 人の暮らしが安定した。舗装完了後、未だ雨季及</p>		

	び冬季はむかえていない。
調査者コメント	<p>担当者によると、当案件は2014年度にも申請されたが、他競合案件との関係で不採択となり、翌年再度申請を行ったところ採択されたとのこと。2017年4月に施工完了したばかりではあるが、以前から申請の動きがあったこともあり、住民の強いニーズの元実現した案件であることが伺える。当案件による舗装道路は全体（12km）の3分の2であり、住民は全村道の舗装を期待している。</p> <p>冬季の積雪の時期に再度調査を行い、舗装前と比べて人々の生活がどのように変化したかの情報が取れると、より裨益効果を確認できると考える。</p>

【案件 3】

案件概要			
案件名 案件名（仏語）	メクネス身障者義肢製作施設機材整備計画 Projet de d'équipement d'un atelier d'appareillage pour personnes handicapés à Meknes		
実施年度／地域	2005年度（平成17年度）／メクネス		
被供与団体 被供与団体（仏語）	イスマイリア身障者協会 Ass. ISMAILIA des handicapés physiques		
供与限度額	86,523 米ドル	9,257,961 円	787,775DH
分野／態様	民生環境／機材整備		
案件内容	メクネス＝タフィラルト地域における児童身障者の生活環境改善を目標に建設された児童身障者教育訓練センターに新設される身障者義肢製作施設の義肢製作修理機材を整備する。		
供与品目	身障者義肢製作施設への義肢製作修理機材購入 ＜調達内容＞ 成型関係機材 60 点／樹脂関係機材 8 点／加熱成型関係 29 点／機械工作業場関係 17 点／製作機械関係 59 点 合計 173 点		
フォローアップ視察			
視察内容	協会長と義肢製作技術者の案内の元、協会施設の離れの地下階にある義肢製作アトリエを視察。		
供与施設・機材の利用状況及び管理維持体制	供与機材は丁寧に管理されている様子だが、使用頻度が少ないように思う。技術者が1名しかおらず、1つの義足を制作するのに1週間を要するため、月間の制作数は4個であるとのこと。		
案件の裨益効果	<p>当案件の機材整備後から2010年までは、UAEより義足製作資材の提供を受けていた。当案件の供与機材を活用し、2007年～2010年の間に、480の義足を無償で供与した。</p> <p>その後、義足製作資材を調達する資金が手配できず、資材費を出せる患者にのみ、制作費は無償で義足を製作している。義足1足あたりの資材費（患者負担分）は下記の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膝下義足：約5,000DH（約60,000円）～6,000DH（約72,000円） ・腰下義足：約8,000DH（約96,000円）～9,000DH（約108,000円） <p>※約5,000DHは、貧しい人の月収に相当する。</p> <p>上述の通り、現在は、月間平均4個の義足を製作しているとのことだが、無償提供を行っていた時期の制作数と比較すると1月あたりの製作個数が減っており、資金調達が困難な故にニーズを満たせない患者が多数いると予想す</p>		

	る。
調査者コメント	<p>被供与団体のあるメクネスは、メクネス=タフィラルト地域の中心地であり、当地域は首都から離れた内陸部の辺鄙な市町村を多く抱えており、被供与団体の協会長は、当地に公共福祉が行き届きにくい点に着目し、当地の障がい者支援を熱心に行っている。案件申請の際、求められた統計情報を入手するため、協会長が首都のラバトへ5時間かけてのタクシー移動を繰り返すなど、かなりの苦労があったと聞いたが、肢体不自由者の生活に灯りを灯したいとの熱意で、当案件を実施した。</p> <p>これまで義足を提供した患者の多くは、糖尿病により足を切断した方であるとのこと。当地域には、怪我等で足を失うような特別危険な環境はなく、他地域と比較して肢体不自由者が多いという情報も見当たらないため、他案件と比較してみても、緊急性が低い印象を受ける。また、義足製作技術者は団体が雇用しているが、1名しかおらず、現在の技術者が転職を希望する場合、相当の技術と資格をもつ者が当地域にいるのか疑問。</p> <p>被供与団体は、資材費の関係により患者のニーズに応えられない現状を踏まえ、義足製作資材費を支援するドナーを探しているとのこと。被供与機材を有効活用いただくためには、同時に、国内で同じく義肢製作を行っている所や、義足が必要な患者を有する医療機関、保健福祉関係の省庁等と連携を図り、ニーズ吸い上げ、技術者確保、資材費の恒常的な確保を模索できればと感じる。</p>

【案件4】

案件概要			
案件名	グルシフ社会活動・訓練センター建設計画		
案件名（仏語）	Projet de construction d'un centre de formation et d'actions sociales à Guercif		
実施年度／地域	2010年度（平成22年度）／グルシフ		
被供与団体	モロッコ赤新月社		
被供与団体（仏語）	Croissant Rouge Marocain		
供与限度額	63,940 ユーロ	8,567,960 円	716,130DH
分野／態様	民生環境／施設建設		
案件内容	グルシフ県グルシフ郷ホアラ村ウレド・サレ集落に、赤新月社団体の活動（救命・救済等）を行うための社会活動・訓練センターを建設する。		
供与品目	<p>1階建てセンター建設工事（延床面積 392.04 m²）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎工事、躯体工事、仕上げ工事 ・グルシフ県からの土地（400 m²）無償提供 ・教室(就学事前児童)1（47.56 m²），看護室1（57.4 m²），教室1（57.4 m²），備品保管室1（34.44 m²），廊下トイレ部分，中庭（112.32 m²） 		
フォローアップ視察			
視察内容	赤新月社の当該地域支局長の案内により、被供与施設を訪問。		
供与施設・機材の利用状況及び管理維持体制	<p>教室では、ボランティア講座の他、首都から医師を招いて地域の医療関係者に対する医療研修会を行ったり、母親学級や医療啓発活動を行うなど、医療、保健、健康に関連するセミナーを開催している。</p> <p>周辺地域には、研修を受けた200名のボランティアがおり、緊急時にボランティアに出動要請をする仕組みを持っており、被供与施設はその拠点となっている。</p> <p>医療キャラバンを組んで、冬期に雪で街へのアクセスが難しい120km離れた山岳の村に、日用品やフードパック、薬などを配給しており、被供与施設の一角には今年の冬のキャラバンのための物資の保管庫として利用されていた。</p> <p>看護室にはEUの支援によって診察機材が整備されており、週に2～3日ボランティア医師が予約制で診療を行っており、週に10名程度の地域住民を診ている。</p> <p>幼児への識字教育のための教室を備えており、毎年3歳～4歳の幼児が30名、1年間のカリキュラムを受けている。</p>		
調査者コメント	以前は、当敷地にテントを張って活動拠点を設けており、施設が建設された事で活動がより充実し、今後は県の支援を受けて2階部分の増築を模索しているとのこと。		

赤新月社は世界的に大きな団体であるため、確立されたボランティア講座内容を持っていたり、啓発資料があるなど、活動内容が充実している。加えて、被供与団体は、支局長始め、各活動を実施する職員の地域貢献の意識も高い。また、医療キャラバンで村が車両を出してくれるなど、被供与団体の活動に地域の人々や自治体が積極的に関わっており、地域の社会活動の拠点として十分に役割を果たしている。

訪問時、20名近くのボランティアが出迎えてくれたが、一人の若い女性にボランティアとなったきっかけを聞いたところ、「以前から越冬支援活動を知っており、ボランティアとして参加したいと思っていた」と答えた。活動内容やその効果が地域に周知されており、それによって地域の人々が積極的に活動に携わっているという事が伺える。

【案件 5】

案件概要			
案件名 案件名（仏語）	グルシフ県村落部保健センター妊産婦医療機材整備計画 Projet de d'équipement en matériel médico-technique des centres de santé avec module d'accouchement des communes rurales de Taddart, Saka et Ras Laksar dans la province de Guercif		
実施年度／地域	2012年度（平成24年度）／グルシフ		
被供与団体 被供与団体（仏語）	グルシフ医師薬剤師友愛会 Amicale medico-pharmaceutique de Guercif		
供与限度額	51,063 ユーロ	5,719,056 円	563,738DH
分野／態様	医療保険／機材整備		
案件内容	グルシフ県の村落部における出産時のリスクを軽減するため、同県内3か村の保健センターに妊産婦医療機材を整備する。		
供与品目	<p>妊産婦医療機材購入 （タダルト村：76点、サカ村：73点、ラス・ラクサル村：83点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型医療機器：エコグラフィ（超音波診断装置）3，大型蒸気滅菌器 3，酸素ボンベ 3，新生児吸引器 3，胎児心拍探知機 3 ・診断器具：ころ付き診察用ランプ 6，小児用血圧計 6，聴診器 3，成人体重計 5，新生児体重計 6，血圧計 6，検眼鏡 3 ・医療家具：新生児保温器 1，診察台用踏み台 4，衝立 5，成人用身長測定器 3，診療台（付属品込み）3，分娩台 1，妊婦診療台（付属品込み）3，薬品棚 3，医療カート 4，医療カート（2段）4， ・その他医療器具：木槌（脊髄反射検査用）2，手袋ケース 3，蒸気滅菌器 3，蒸気滅菌器 3，ステンレスプレート 6，ステンレス膿盆 6，包帯用ハサミ 8，クスコ 15，応急手術キット 9，メイヨー剪刀（湾曲）6，メイヨー剪刀 6，モスキート鉗子 6，モスキート鉗子（湾曲）6，コッヘル鉗子 6，ペアン鉗子 6，鉤状切開鉗子 6，切開鉗子（鉤なし）6，膀胱検査注入管 6，包帯用ハサミ 6，浚瓶（5リットル）6，ピンセット 6，ピンセットケース 6，ペダル開閉式ステンレスバケツ 6 		
フォローアップ視察			
視察内容	協会長の案内の元、ラス・ラクサル村の保健センターを視察。		

<p>供与施設・機材の利用状況及び管理維持体制</p>	<p>供与機材は、村に初めて入った唯一の妊産婦検診機器であり、エコー等の大型機器からピンセット等の細かな道具まで全て、大変綺麗に維持管理されており、大切に活用されている様子が伺える。</p> <p>保健省の看護師や助産師、被供与団体の医師が常駐しており、出産の対応や妊産婦検診の体制が整っている。(助産師2名、医師1名、看護師2名が勤務)</p>
<p>案件の裨益効果</p>	<p>村に病院がなく、これまでは出産の際も3時間かけて最寄りの都市グルシフの病院に行っていた。そのため、産前のフォローを受ける妊婦がほとんどおらず、自宅出産を選ぶ妊婦も多く、医師の処置が必要な際、緊急搬送を行っても間に合わない場合もあり、年間4人程度の新生児死亡があった。機材整備をしたことで村での出産が可能になり、新生児の死亡件数がなくなった。</p> <p><u>ラス・ラクサル村(総人口1,971人)保健センターの2016年の実績</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・43人の妊産婦が受診、うち30人が当センターで出産。 ・妊娠相談のべ273人(1妊婦につき3回程度受診) ・出産者のうち21人が難産(持病もちの妊婦) ・産後フォローアップのべ170人が受診。
<p>調査者コメント</p>	<p>供与機材は辺鄙な当地にとって、妊婦や新生児のいのちを守るために大変重要な機材であり、また、供与団体がしっかり保健省と連携してクリニックを運営しており、確実な管理・利用体制が整っている。数ある案件の中、また広い国土の中で、このような重要かつ有意義な案件を吸い上げることができ、実際に有意義に利用して被益効果を出している事はとても素晴らしく、担当職員の案件選定の努力が感じられる。</p>

【案件6】

案件概要			
案件名	ラス・エルクサル村飲料水供給計画		
案件名（仏語）	Projet d'alimentation en eau potable dans la commune rural de Ras Elksar		
実施年度／地域	2011年度（平成23年度）／グルシフ		
被供与団体	ティヤドリン農村女性協会		
被供与団体（仏語）	Ass. TIYADRINE pour la femme rural		
供与限度額	75,014 ユーロ	9,001,680 円	833,333.33DH
分野／態様	民生環境／施設建設		
案件内容	グルシフ県ラス・エルクサル村に上水道設備を整備し、住民の安全な水へのアクセスを改善する。		
供与品目	<p>ラス・エルクサル村における上水道設備（ポンプ2か所、貯水槽、配水本管（防錆鉄パイプ2,500m）の整備</p> <p>【建設・調達内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポンプ設置：動力4リットル/秒，7.5キロワット（水源地） ・貯水槽建設：貯水槽容量120 m³（タシュリフト集落村役場敷地内） ・ポンプ設置：動力1リットル/秒，2.5キロワット（タシュリフト集落村役場敷地内） ・配水本管敷設：2,500m（タシュリフト，アイト・エル・バジ集落間） <p>団体負担部分：高架水槽仕切り壁工事（タシュリフト集落村役場敷地内），既存貯水槽（貯水容量：20 m³）修繕工事（アイト・エル・バジ集落内），配水本管敷設工事2（アイト・エル・バジ集落とズアイウア集落間（3,300m））</p>		
フォローアップ視察			
視察内容	水供給路の起点にあたる配水ポンプの視察と、配水管の終点近くの民家2件を訪問し、水道利用状況の視察。		
供与施設・機材の利用状況及び管理維持体制	<p>ポンプの電源や配水に係る電気代は村が負担している。配水ポンプには常時技術者（村の職員）が駐在しており、問題があった場合はすぐに対応できる体制を整えている。機材整備後、2回、電圧の問題によるポンプの不具合があったが、すぐに技術者が気づいて修理の対応をしたなど、維持管理体制は十分整っている。</p> <p>各家庭の水道利用料の管理も同技術者が担っており、このように村の協力を得て、被供与設備を効果的に運営できている。</p>		
案件の裨益効果	これまで、当集落で水を調達するには、切り立った崖を2kmほど降りた川まで水を汲みに行かなければならず、各家庭の女性や子どもがこれを担ってい		

た。水くみの重労働によって、学校へ行くことのできない子どもたちも多数いた。

水道を整備したことで、水くみの危険がなくなっただけでなく、子どもたちが学校に行けるようになり、女性たちの家事の負担が減り、集落の人々の生活が安定した。

【案件 7】

案件概要			
案件名 案件名（仏語）	巡回眼科検診及び眼鏡加工機材強化計画 Projet de renforcement de l'unité mobil en équipement de dépistage et de montage des lunettes		
実施年度／地域	2002年度（平成14年）／ラバト		
被供与団体 被供与団体（仏語）	モロッコ失明予防協会 Association Marocaine de prevention de la cecite		
供与限度額	20,065 米ドル	2,447,930 円	223,850DH
分野／態様	医療保険／機材整備		
案件内容	モロッコ失明予防協会に対し、診断・診察に必要となる測定器など機器を供与する。		
供与品目	自動角膜計、自動屈折計、角膜曲率半径測定器 ※近視遠視乱視の度数を測り、目の屈折状態を調べ、視力検査に役立つ機器 レンズメーター ※眼鏡やコンタクトレンズの度数を測定する器械 視力テスト用プロジェクター ※投影式の視力及び視覚検査機器 検眼レンズセット、レンズ加工機器		
フォローアップ視察			
視察内容	被供与団体の運営するクリニックを訪問。供与時からクリニックの場所が変わり、訪問する1週間前に引っ越したばかりとの事であったが、多数の患者が診察を待っており、各供与機材とも患者の診察に使用している風景を視察する事ができた。		

<p>供与施設・機材の利用状況及び管理維持体制</p>	<p>供与から 15 年経った現在も、供与機材を有効に活用している。故障等の場合は、メーカーに問い合わせ、被供与団体の資金で修理を行うなど、メンテナンスもしっかり行っているとのこと。</p> <p>クリニックの建物の維持費は、県庁・教育省・被供与団体が協定を組み、県が負担することとなっている。団体の活動費は、個人からの寄付、保健省や内務省、社会開発省からの支援で賄っている。</p> <p>人件費は各支援を利用しており、内訳は以下の通り。</p> <p>スタッフ総数 24 名</p> <ul style="list-style-type: none"> —看護師 8 名（保健省派遣 4 名、内務省派遣 4 名） —医師 4 名（保健省派遣 2 名、ボランティア 2 名） —庶務等 12 名（ラバト市 2 名派遣、団体雇用 4 名、その他ボランティア）
<p>案件の裨益効果</p>	<p>クリニックでは 1 日 120 人～140 人の患者を無料で診ており、この検査に日々供与機材を利用している。</p> <p>供与機材を利用して、年間 1,400～2,000 個の眼鏡を制作している。眼鏡を作るのは基本無料だが、患者から眼鏡 1 個制作につき 5 ユーロの寄付をもらっている。</p> <p>眼鏡の資材メーカーとの協定があり、格安で資材を用意することができており、年間眼鏡制作にかかる総支出は 20 万 DH（約 240 万円）。この費用は、団体への寄付や眼鏡制作時に受け取る 5 ユーロの寄付で賄っている。</p>
<p>調査者コメント</p>	<p>県や市、各省庁から人員派遣や施設維持費などの支援を受けて活動運営をしており、安定して人々のニーズを満たすために、工夫した団体運営をしているとの印象を受けた。</p> <p>しかし、団体自体の運営費は個人からの寄付で賄っており、有志の医師のボランティアで成り立っている部分もあるため、団体の活動を通して資金を調達できるシステムができると尚良いと思う。</p>

5. 視察を行ってのコメント

- モロッコはアフリカ大陸とヨーロッパをつなぐゲートウェイとして、53社の日本企業が進出しているなど、経済発展が著しく、日本では観光地という印象が強い。しかし、国内の貧富の格差は大きく、モハメッド6世国王主導の下、政府や市民社会が「地域格差是正」に積極的に取り組んでいる。また、アフリカを牽引する立場として、南南協力を目指した技術強化も行っている。このような政策を支援するかたちで、日本政府におけるモロッコ開発目標計画が設定されており、支援の重要性は充分にあり、成果とこれによる波及効果が期待できる国であると言える。草の根無償に限らず、一般的に、開発援助の成果を見る時に、紛争地域などの緊急支援を要する国への支援にスポットがあたる印象が強いが、モロッコのように、第三国への広がり期待できる国への支援についても、周知され、強化するべきだと考える。
- 視察した供与先のうち、裕福な個人からの寄付に頼って団体運営を行う団体もあった。これはイスラムの慣習によるものではあるが、財源が寄付のみでは、団体の運営や活動継続が不安定となるため、団体の活動を通じた確実な財源確保や、国及び地方自治体のバックアップを得た活動を展開する等、工夫が求められる。
- 石井書記官始め、草の根無償案件の形成・フォローを行う担当職員の能力が高い。また、委嘱員制度の性格を十分に活かしているとの印象も強い。モロッコの生活や文化地域性を理解している深須委嘱員が、地域特有のニーズや地域住民の声などを丁寧に吸い上げ、担当官と協力しながら案件形成やフォローに携わっている様子が伺えた。
- モロッコ国内では年間30件以上の要請が上がるが、本省国別三課より配分される予算の関係で年間最大3件しか採択できないとのこと。その上で、担当職員がしっかり調査を行い、団体の実施能力やニーズの高さを吟味し、適切な案件形成を行っていると言える。今回視察した案件は、どれも有効に活用されており、全てが実施能力の高い団体であるという印象を受けた。モロッコ国内で年間3件しか採択できない現状では、採択されなかった案件の中にも、優良案件が多くあるのではないかと予想する。案件数は、各国の可能予算のバランスをみて決定しているものであると考えるが、より効果の高い案件が採択できる様調整し、モロッコに関しては年間の実施案件数を増加する可能性はないのか。

6. 提言

(I) 被益効果の明確な設定

りん請書にて、被益効果が曖昧な案件がいくつかあり、視察を行う際にも、どの視点を持って案件の成果や達成度を検証すればよいのか不明確なものがあった。りん請の際に、事業評価の指標となり得る、より明確な被益効果を明記することを提案する。

(II) 国民がアクセスしやすい広報を

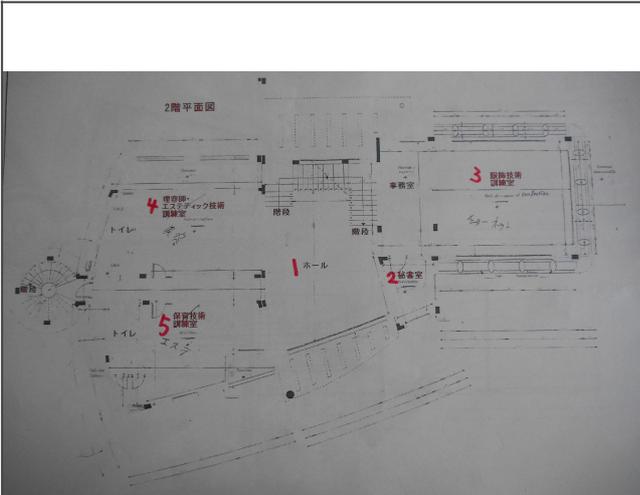
事業の手引きには、日章旗のマークを効果的に掲示し、地元メディアで日本の支援である旨の広報を推進するなど、現地の人々への広報活動について言及されているが、大使館や外務本省として、日本の人々が成果を理解できる広報にも努めていただけると尚良い。

今回視察させていただいた7案件は、草の根無償の目指す人間の安全保障の理念に基づいた、大変効果的な案件であり、ODAによって、このように多くのモロッコの住民に被益効果が出ていることは喜ばしい事であり、ODAの意義を再確認する事ができた。このような成果を、より多くの日本国民にも周知させるべきであり、外務省や在外公館ホームページといった閲覧者が限定されるようなツールのみではなく、SNS等アクセスしやすく広がりやすいツールを利用して広報を行ったり、ODAの成果を国民が身近に感じる内容の広報誌を作成するなど、より広い分野の国民に周知できる広報体制が確立されることを提案する。

以上

付録. 写真報告書

【案件1】子どもと女性のための社会センター建設計画（マラケシュ）



草の根で供与した2階部分の設計図。



センターの外観



2階部分の入り口にODAの看板が設置されている。



1) ホール



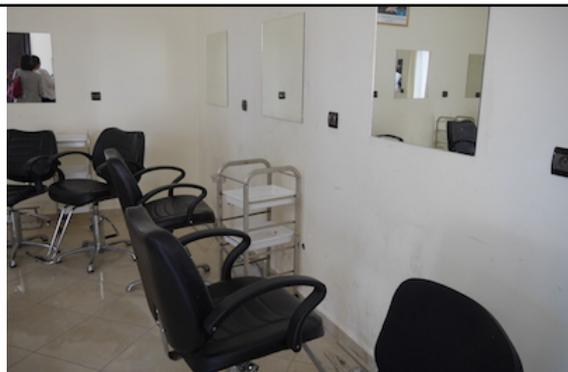
3) インターネット講習室



2) 秘書室



5) エステティック訓練室



4) 美容訓練室

【案件2】ビン・エル・ウイダン村道路整備計画



整備道路の入り口に、看板が立てられている。



集落住民が、車やロバで街に買い物に出て来ている。



整備道路を歩く住民たち。



集落に続く未舗装道路（手前赤土部分）と、整備道路との境目



山の斜面に走る整備道路（白く見える道路）



掘削工事にて整備された部分



整備道路終点にある学校と子どもたち。人々は山の斜面で暮らしている。



道路脇には、排水溝が整備されている。

【案件3】メクネス身障者義肢製作施設機材整備計画



義足製作アトリエ



義足製作について説明する技術者



供与機材：研磨機



義足製作作業台



供与機材：糸のこ



供与機材：帯状研磨機



義足製作のための型どり作業



義足の部品

【案件4】 グルシフ社会活動・訓練センター建設計画



施設正面にて、被供と団体関係者と視察団



研修会等を行う教室にて、ボランティアたち



看護室入り口。EUの支援にて運営を行っている。



看護室の一角に、事務スペース



幼児の識字教室を開催する教室



識字教室の側には、幼児専用トイレを整備している。



倉庫には越冬支援キャラバンの物資が用意されていた。



倉庫が足りず、廊下にも物資が保管されている。

【案件5】 グルシフ県村落部保健センター妊産婦医療機材整備計画



保健センター入り口



待合室からみた処置室の入り口。ODAマークが掲示されている。



薬品棚内部。きれいに整理されている。



供与機材：薬品棚



処置室の様子。ポンプ、診察台等、全て当事業の供与機材。



供与機材：エコーグラフィ



供与機材：医療カート



供与機材：新生児保温器と新生児吸引器

【案件6】 ラス・エル・クサル村飲料水供給計画



貯水槽とポンプ室入り口にODAの看板が設置されている。



集落から川の方を望む。2Kmの悪路を歩いて水くみに行っていた。



ポンプ室の説明をする技術者（村の職員）



ポンプ室内部の様子



ポンプ室から2,500m離れた高架水槽（被供与団体が設置）



住宅に設置された水道メーター（右下）



住宅にて。水道の水を飲料水として利用している。



住宅にて、水道利用状況の調査。

【案件 7】巡回眼科検診及び眼鏡加工機材強化計画



クリニック待合室には、大勢の患者が診察を待っていた。



クリニック受付の様子。



視力テストの様子



視力テストの様子



供与機材：視力テスト用プロジェクター（上）



供与機材：検眼レンズセット



供与機材：レンズメーター（レンズの度数を測る機器）



供与機材を利用して製作された眼鏡。